えんちょう通信

No.５６
令和３年１１月１１日
福島市立清水幼稚園
発行者　佐藤 一男

「自発的な遊び」を通して

　年長組の男の子が、みんなの部屋で電車の線路を作っています。何日も何日も、細長く切った段ボール紙に線路を描き、それをつないで長い線路を作っています。
「これ、いつから作っているの？」と声をかけると
「１１回目くらいかな・・・。」と教えてくれました。
「どうして線路を作ろうと思ったの？」ときくと
「友だちが『せんろはづづく　どこまでつづく』という絵本を見つけて、それを見せてくれて、それで自分も作ってみようって思ったから。」と言います。
「すごいね、立体交差になっているんだね。」と言うと
「『りったいこうさ』って、どういうこと？」と聞いてきます。
「線路や道路がぶつからないように上と下に分けて通れるようにすることかな。」と話しました。
「そういうことか。」と納得して、また線路づくりを続けます。
　次の日、また線路づくりの様子を見に行ってみました。するとその子が、絵本や電車の図鑑を開いて、何か考えています。
「何、調べているの？」と声をかけると「『これからどうしようかなー』って考えてた。」と言います。そしてしばらくすると「わかった、橋を作る！」と声をあげました。その子の頭の中では、つないでいった線路の先に、川があったようです。遊びの中で、ここにはないものも、子どもたちは頭の中で想像してつくり出していきます。
「これなら北海道まで行けるね。」と言うと、「どこでも行けちゃうよ。」と、とても嬉しそうです。
　この子が線路づくりを何週間にもわたって続けることができているのは、この遊びが、自分で見つけて、自分からやってみようと思った「自発的に選んだ遊び」だからだと思います。
　こういう「自発的な遊び」の中で、子どもたちはここにないものを想像したり、試行錯誤を繰り返したりしています。線路が延びるにつれて、課題が次々に生まれていきますが、子どもたちは、それを他の人に聞いたり、自分で絵本や図鑑を見返して考えたりして、自分の力で解決していきます。
　そうやって子どもたちは、思考力や想像力、あきらめないで根気強く続ける力などを身につけていきます。そういう力が小学校や中学校、そして大人になっても、その子を支えてくれる「生きる力」になります。子どもたちは、毎日、遊びを通して学んでいます。